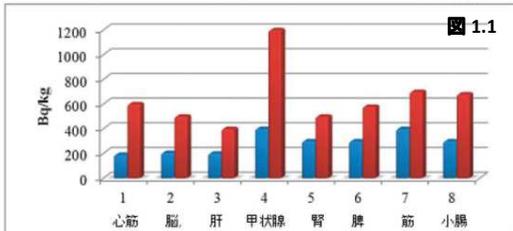


世界の低線量被ばくによる健康被害例

(抜粋) 追加意見書

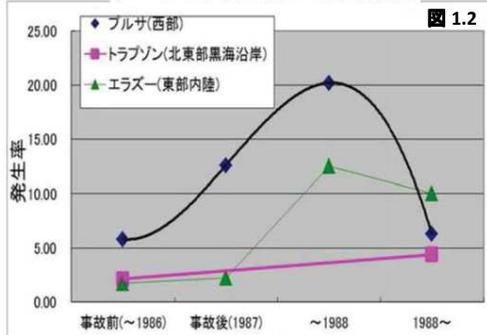
(2014年9月10日、原爆症認定訴訟用) 琉球大学 矢ヶ崎克馬

1997年死亡ベラルーシ市民130人のCs137の臓器蓄積量

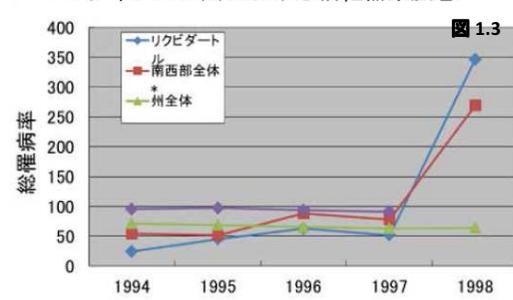


病理解剖各臓器別セシウム137の蓄積量: 青:成人 赤:子ども
 バンダジェフスキー著
 『放射性セシウムが人体に与える 医学的生物学的影响
 チェルノブイリ・原発事故被曝の病理データ』

トルコにおける出生児の神経管欠損症

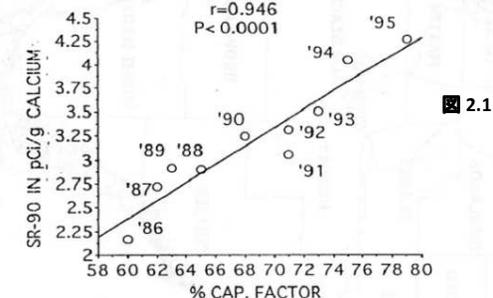


ブリヤンスク州における消化器系疾患

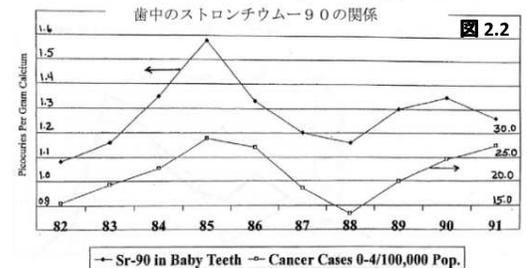


(抜粋) 内部被ばくについての考察 琉球大学 矢ヶ崎克馬

小児の歯中のストロンチウム-90含有量と
 原子力発電年間稼働率の関係

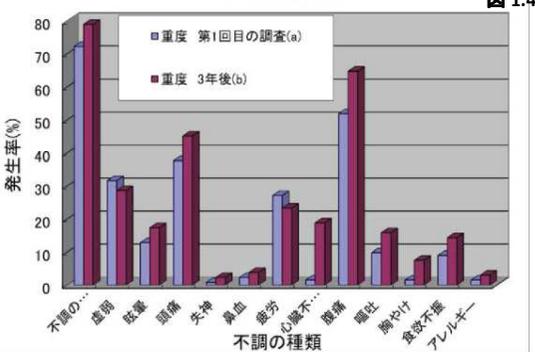


ニューヨーク、サフォーク群における小児がん

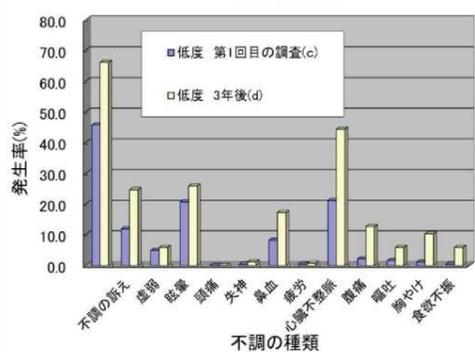


子どもの健康状態の不調及び症候群の発生頻度(2002年)

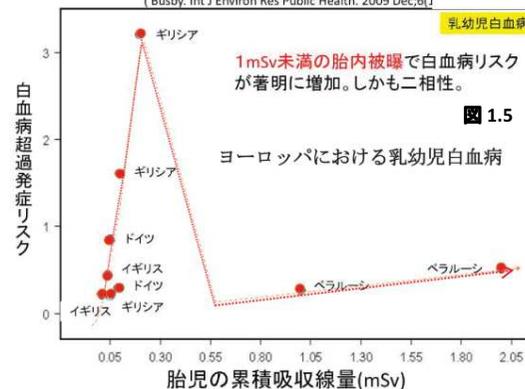
重汚染地域



低汚染地域



(Busby, Int J Environ Res Public Health, 2009 Dec;6:1)



ベラルーシにおける先天性奇形

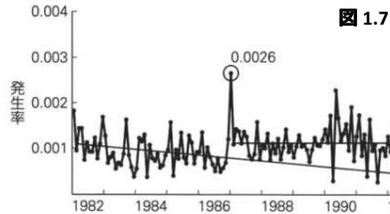
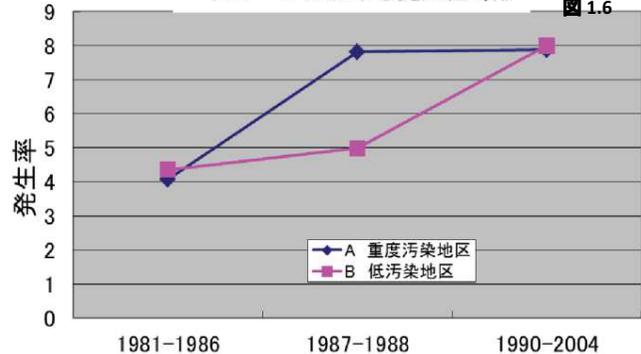


図 1.7 1982~1992年のベラルーシにおける21トリソミーの発生率[1万人あたり](母集団172万3千人:検査対象1,791人)。変化点モデルが、1986年12月における統計的に有意な急上昇(p<0.0001)と「2本の折れ線の急激な変化」、および1987年1月のピークを示している(Sperling et al., 2008)。

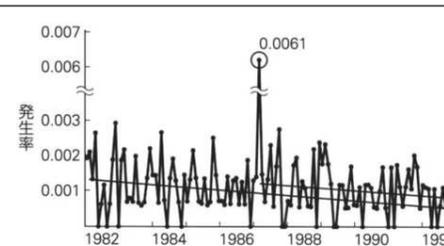


図 1.8 1982~1992年の西ベルリンにおける21トリソミーの発生率(母集団21万8,497人:検査対象237人)。変化点モデルが、1986年12月の統計的に有意な急上昇(p<0.0001)と1987年1月のピークを示している(Sperling et al., 2008)。

ベラルーシ(左)と西ベルリン(右)におけるダウン症の発生率

